

は無きにや、尋ねて定むべし。

〔日本書紀二神代〕一書曰○中是時海神自迎延入乃鋪設海驢皮八重使坐其上○中略

一云○中海驢此云美知

〔夫木和歌抄三十六〕建長五年百首

衣笠内大臣

わが戀は海驢のねながれさめやらぬゆめなりながらたえやはでなん

〔南島志下物産〕亦多鱗介則海出白魚亦名海馬馬首魚身皮厚而青其肉如鹿人常啖之

〔倭名類聚抄毛十八〕水豹 文選西京賦云搃水豹和名阿佐良之

〔類聚名義抄四〕水豹 アサラシ

〔運步色葉集阿〕水豹 アサラシ

〔本朝食鑑十一〕脛肭臍○中略

附錄○中水豹アサラシ源順訓阿佐羅志此亦葦鹿脛肭之類歟小笠原家以皮爲射禮之具松前蝦夷海上有之歟

〔和漢三才圖會三十八〕水豹 和名阿左良之

本綱豹有水陸二種而海中豹名水豹文選西京賦謂搃水豹者是也

按蝦夷海中有水豹大四五尺灰白色有豹文剥皮販于松前其皮薄毛短而不堪用

〔奥州後三年記上〕永保三年の秋源義家朝臣陸奥守になりてにはかに下れり眞衡まづ戰の事を忘れて新司を饗應せん事をいとむ三日厨といふ事あり日毎に上馬五十疋なん引ける其外金羽あざらし絹布のたぐひ數えらすもてまいれり

〔台記〕仁平三年九月十四日庚子去々年厩舍人長勝近貞爲使下向奥州先年可増奥州高鞍庄年貢

之由禪閣○藤原忠實被仰基衡○中水豹皮五枚

〔本朝食鑑十一〕脛肭臍○中略

れつふ

海馬  
水豹